

研究員紹介

山根 裕子 協力ネットワーク開発研究領域 国内研究員（任期：2011年4月1日～2012年3月31日）

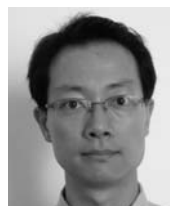
ケニア西部ビクトリア湖岸の土地荒廃進行地域において、家畜が土壤侵食に及ぼす影響を評価するための調査と対象地で行われているNGO等による土壤流出防止を目的とした支援活動の実態を探り、問題を抽出するための調査を行っています。私の研究は、地域研究の手法を用い、自然科学と社会科学の両方から調査を行い、地域に暮らす人々の視点に立った地域支援の方法を探ることを目的としています。昨年からは土地荒廃進行地域の下流に広がる稲作地域において、地域研究を基盤としたアフリカ型の稲作支援の方法を探るための研究も始めました。



略歴 1970年12月鳥取県生まれ。東北大学農学部卒業（畜産学科）、東北大学大学院農学研究科修士課程修了後、2005年京都大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学（農学博士）。2008年5月より名古屋大学農学国際教育協力研究センター研究機関研究員を務めた後、2011年4月より現職。

浜野 充 プロジェクト開発研究領域 研究員（任期：2011年4月1日～2012年3月31日） JICA草の根技術協力事業「伝統産業の復興による農産物加工技術振興プロジェクト」現地マネージャー

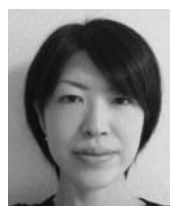
これまでJICAの青年海外協力隊、技術協力プロジェクト専門家として国際協力に従事した後、2008年より名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程後期課程（ICCAEプロジェクト開発研究領域）で、カンボジアの農村における米蒸留酒の品質向上と経営への影響に関する実証研究を行い、2011年1月よりICCAEが受託したJICA草の根技術協力事業の現地マネージャーとして派遣されました。これまでの経験を生かして、カンボジアの農村の酒造農家の技術向上と経営改善に貢献したいと思います。また、引き続き技術普及と酒造業の変化について研究を続けていきます。



略歴 1973年1月京都府生まれ。近畿大学農学部卒業（国際農業開発）、JICA青年海外協力隊、英国イーストアングリア大学（UEA）農村開発学修士課程修了。2003年以降JICA技術協力プロジェクト（カンボジア：農業、ジェンダー主流化）に従事。2008年名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程後期課程入学、現在JICA草の根技術協力事業「伝統産業復興による農産物加工技術振興プロジェクト」現地マネージャー。

仲田 麻奈 協力ネットワーク開発研究領域 研究機関研究員（任期：2011年7月1日～2012年3月31日）

修士・博士課程では、イネの乾燥ストレス耐性について、とくに根の発育と機能に注目して研究に取り組んできました。フィリピンやタイで稲作圃場を見学した際に、自分が研究の対象としている実際のイネの栽培現場を初めて自分の目で見て、農家の人や現地研究者の生の声を聞き、栽培の実態を正確に捉えることの大切さを痛感しました。これまでに培った知識や経験を活かし、アフリカの稲作振興に向けて少しでも貢献できるような研究成果を出せるよう頑張りたいと思います。



略歴 1981年生まれ。2005年近畿大学農学部農学科卒業。2007年名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程前期課程修了。2011年名古屋大学大学院生命農学研究科にて博士号（農学）取得。日本学術振興会特別研究員を経て、2011年7月より現職。

海外実地研修について 早川 由起 農学部資源生物科学科4年

昨年度、この海外実地研修プログラムに参加し、農業を通してタイやカンボジアの調査を行いました。現地の学生に通訳してもらい、話し合いながら調査を進めましたが、正しい情報を集めて正しく現状を理解するということの難しさを痛感しました。言葉の壁はもちろんのこと、歴史的背景・風土に対する理解の薄さや、気づかぬうちに持っている固定観念も大きな原因となりました。

カンボジアは、地雷や貧困に苦しむ国といわれ、日本からも多くの支援が行われていますが、農村を訪れた際に出会った人々は現在の暮らしに満足しているようで、本当に必要な支援とは何かということを考えさせられました。しかし、街では、職がなく物乞いをする人にも何度か出会いました。お金がないと食べ物を得られない街の人々と、大きな利益はなくとも自給自足の生活ができる農村の人々の生活を知り、農業が、人々の生活を豊かにするために最も基本的で最も重要な産業であるということ、改めて感じました。そして、同時に自給率40%の先進国日本が抱える食料・農業問題の大きさも実感し、農学を学んでいることの使命感と誇りを感じました。

今年度の研修では、タイ、カンボジア、そして日本について、農業だけでなく幅広い分野の知識と、それに対する柔軟な考え方を、現地の調査に望みたいと思います。



海外実地研修の参加者

オープンセミナー（2010年12月～2011年6月）

回数	日時	テーマ	講師	所属
2010年度 第4回	1月28日	タイにおける野生動物保護のための人工生殖技術	アヌチャイ・ピニョプミン	タイ・カセサート大学獣医学部准教授 / ICCAE外国人客員教授
第5回	3月22日	ケニア西部高地における非生物的ストレス条件下での陸稲生産システムの開発	浅井 英利	ICCAE研究員
2011年度 第1回	5月9日	天水農業を対象とした作物・資源管理研究	伊藤 治	元国際農林水産業研究センター 生産環境領域長
第2回	5月30日	持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)とは何か —途上国における教育の可能性—	北村 友人	上智大学総合人間科学部准教授 / ICCAE客員教授